

**平成 22 年度
8020 達成サポート調査事業
報告書**



平成 22 年度 8020 達成サポート調査事業

目 的：高齢者の口腔と健康長寿の関連を明らかにし、8020 達成及び健康長寿あい
ち推進のための基礎資料を得ることを目的として、80 歳の方の全身や歯の健康状況、生
活習慣の状況、人生の志向性等を調査した。

調査対象者： 愛知県下の満 80 歳の男女 500 名

実 施 地 区： 10 地区（名古屋地区）東区・中川区・天白区
（尾張地区）稲沢市・春日井市・瀬戸市・半田市
（三河地区）安城市・豊橋市・一色町

調査内容及び調査方法：

(1) 一次調査 [8 月実施]

1 地区 50 名(計 500 名)を一次調査対象者として、各市町村の協力により 80 歳の男女
を住民台帳より抽出し、調査対象者には、一次調査票を郵送し、二次調査の実施可否を
確認する。調査票は郵送にて回収した。

(2) 二次調査 [10 月 1 日～11 月 20 日]

一次調査の結果より、二次調査の希望者名簿を作成し、歯科医師（部員及び地区担）
による二次調査票を用いた「対面聞き取り調査」を実施した。

担当歯科医より対象者へ電話連絡による調査予約をし、対象者が通院可能であれば、
調査担当歯科医の歯科医院または調査会場(保健センター・公民館等)で、また、通院困
難な場合は、調査担当歯科医による訪問調査を実施した。

調査担当者： 地域保健部部員および地域保健地区担当者

実 施 者： 愛知県・愛知県歯科医師会（受託者）

調査結果

調査対象者 : 愛知県下 10 地区における住民台帳より無作為抽出された満 80 歳男女 492 名

実施地区 : 10 地区 (名古屋地区) 東区・中川区・天白区

(尾張地区) 稲沢市・春日井市・瀬戸市・半田市

(三河地区) 安城市・豊橋市・一色町

一次調査

調査方法 : 郵送法

調査期間 : 平成 22 年 8 月

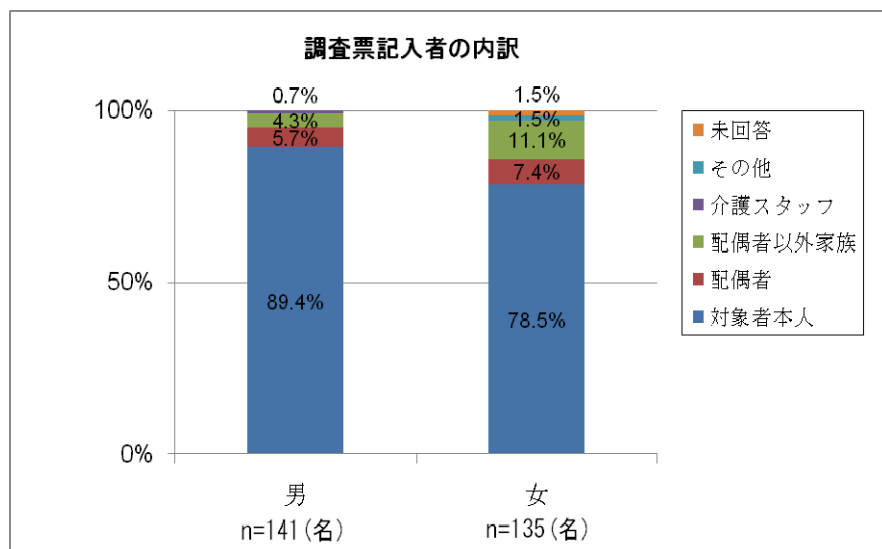
1. 調査対象者の性別 (名)

男性	女性	全体
232	260	492
47.2%	52.8%	100%

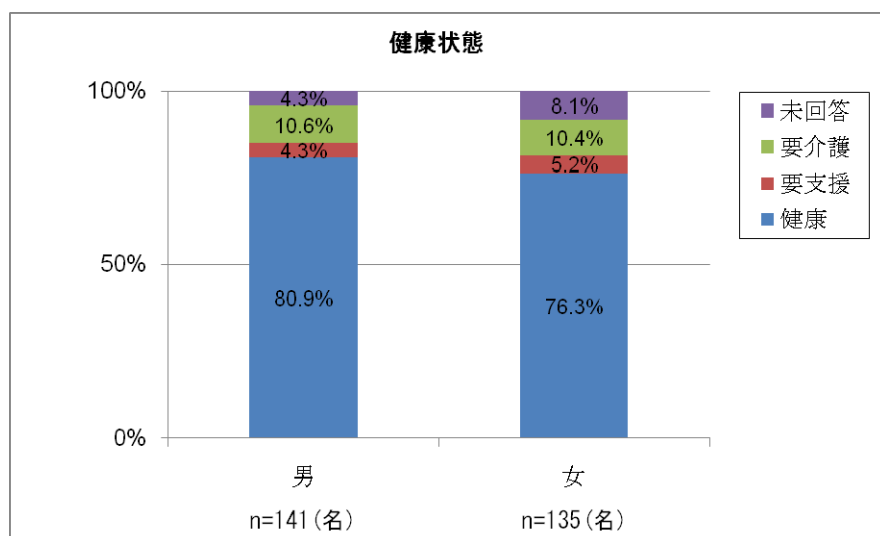
2. 一次調査回収数 (名)

男性	女性	男女全体	対象者
141	135	276	492
60.8%	51.9%	56.1%	

3. 調査票記入者の内訳

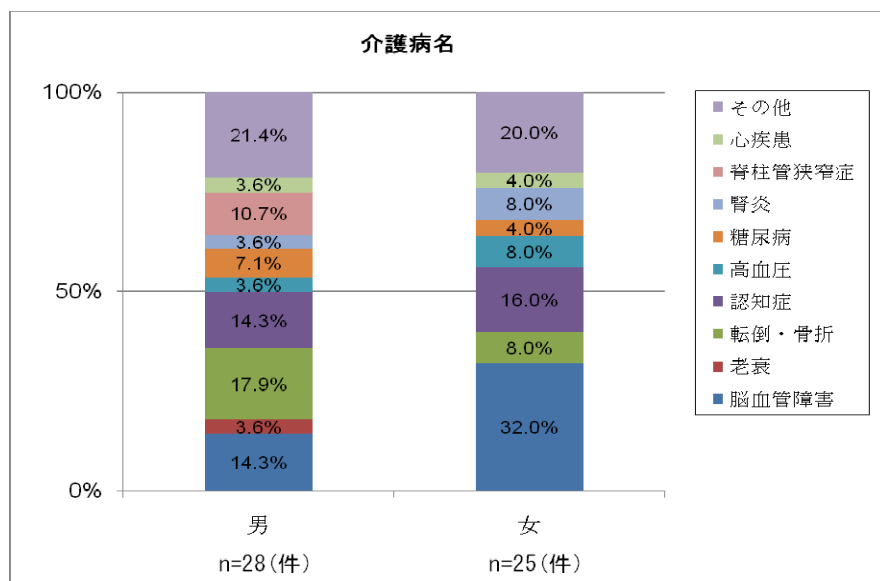


4. 健康状態



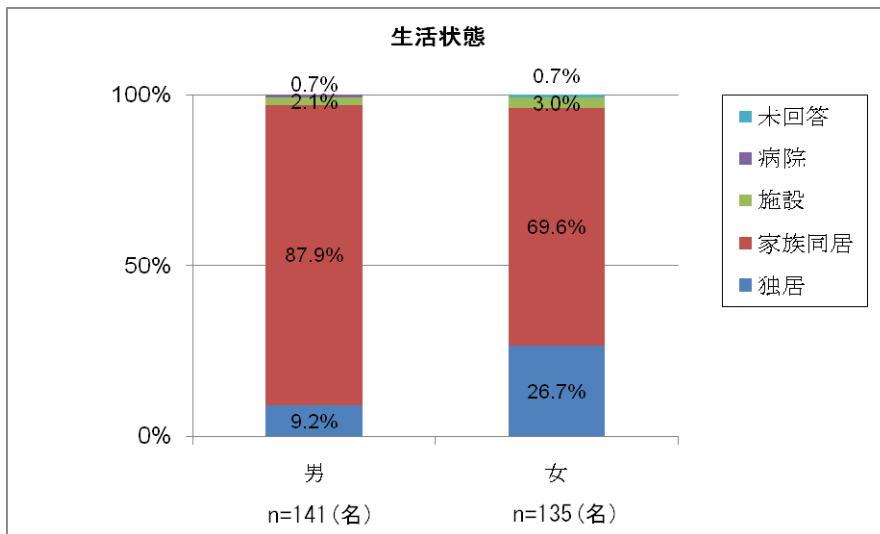
健康と回答した者は、男性 81%、女性 76% で多数を占めていた。平成 22 年の愛知県における要支援・要介護認定者数は約 22 万人であった (Wam Net)。これは 65 歳以上人口の約 15% に相当し、本調査の 80 歳データとほぼ一致していた。

5. 介護病名 (複数回答可)



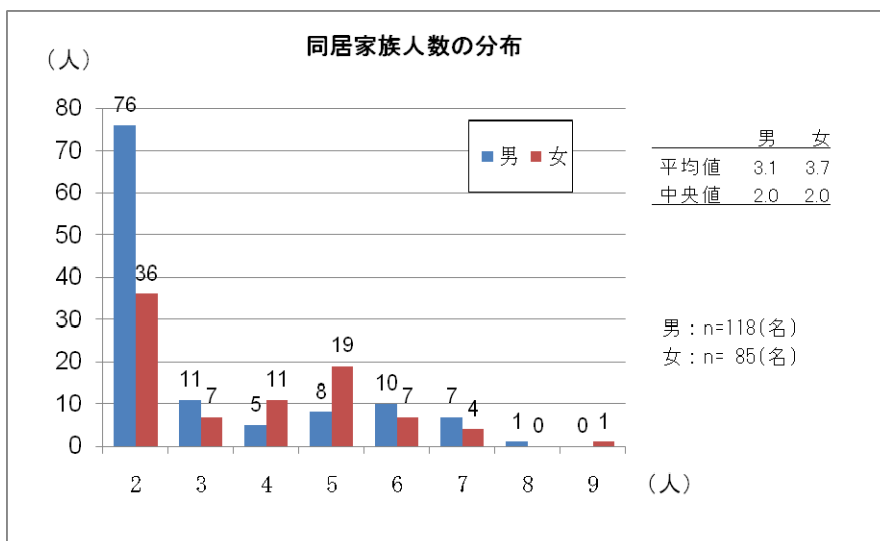
要介護となった主な病名は、男女共に脳血管障害、転倒・骨折、認知症が約半数を占めていた。

6. 生活状態



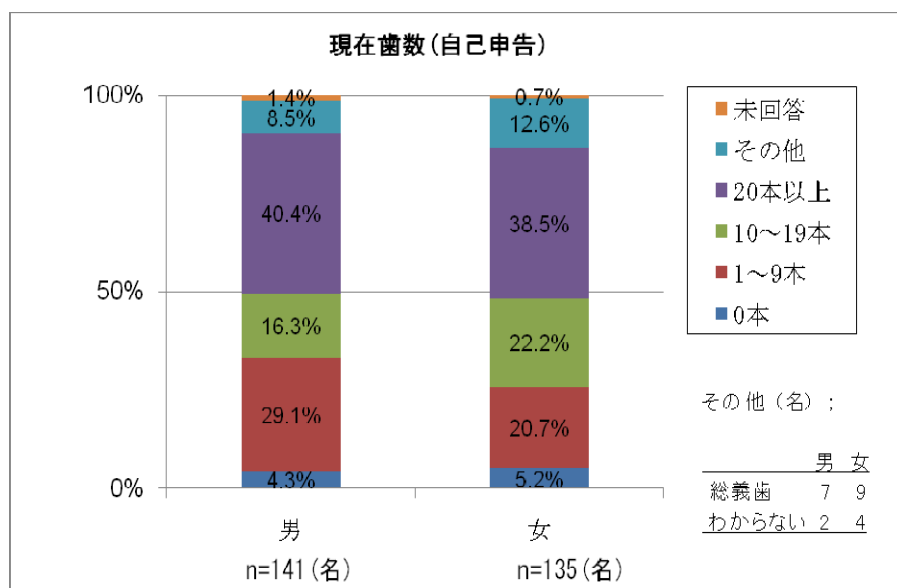
男女共に家族同居の割合が7割から9割近くを占め最も多かった。80歳において、家族同居の割合は男性が女性より多かったことに対し、独居については、女性が男性より多かったことが明らかになった。

7. 同居家族人数（本人を含む）



同居家族人数は、男女共に同居2人が最も多く占めていたことから、高齢夫婦世帯が多いのではないかと考えられた。

8. 現在歯数（対象者からの申告）



対象者から現在歯数（治療を受けた差し歯や被せものも含めた本数）の自己評価によると、20本以上の回答者が最も多く約4割を占めていた。

二次調査

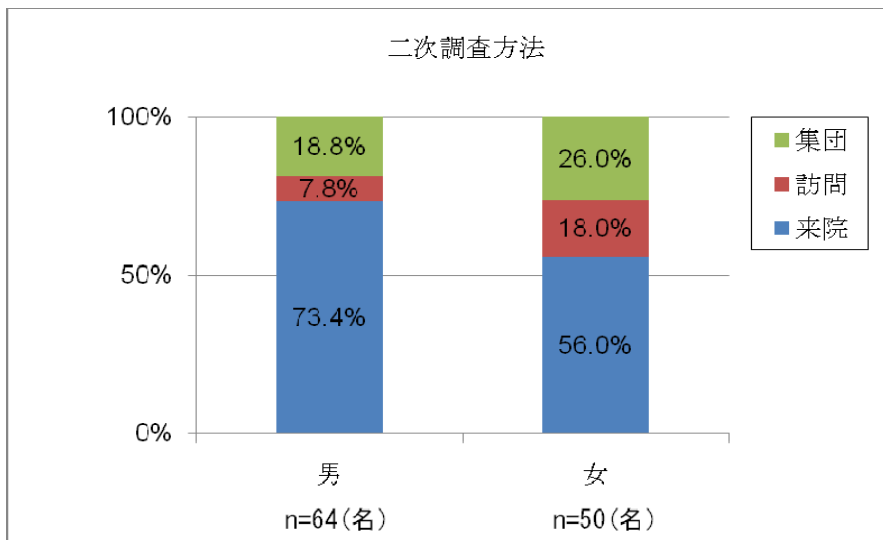
調査方法 : 対面聞き取り調査および口腔内診査

調査期間 : 平成22年10月～11月

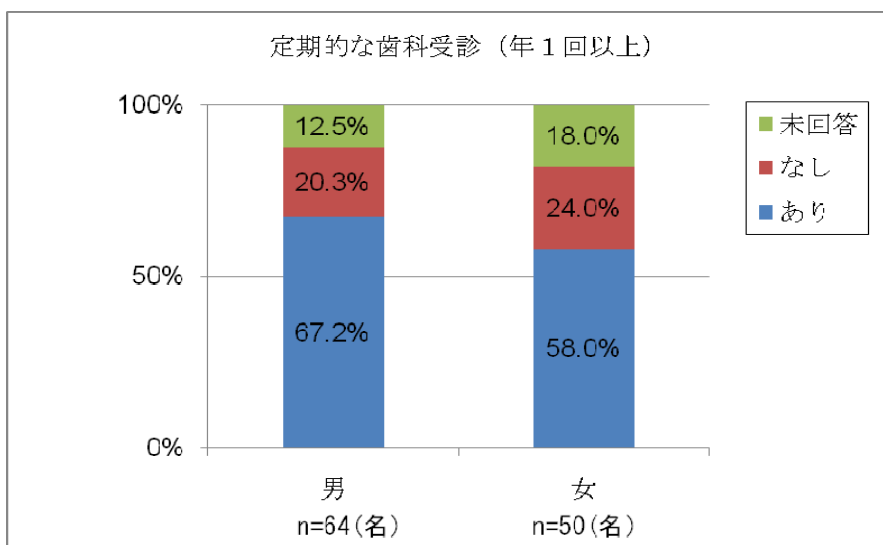
9. 二次調査回収数(名)

男性	女性	男女全体	全対象者
64	50	114	492
56.1%	43.9%	100%	
13.0%	10.2%	23.2%	

10. 二次調査方法

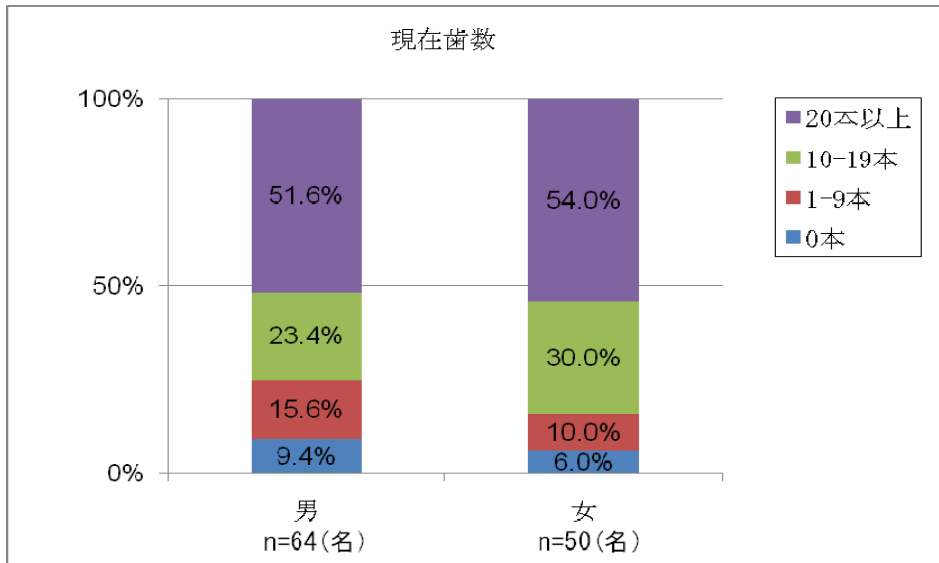


11. 定期的な歯科受診(年1回以上)

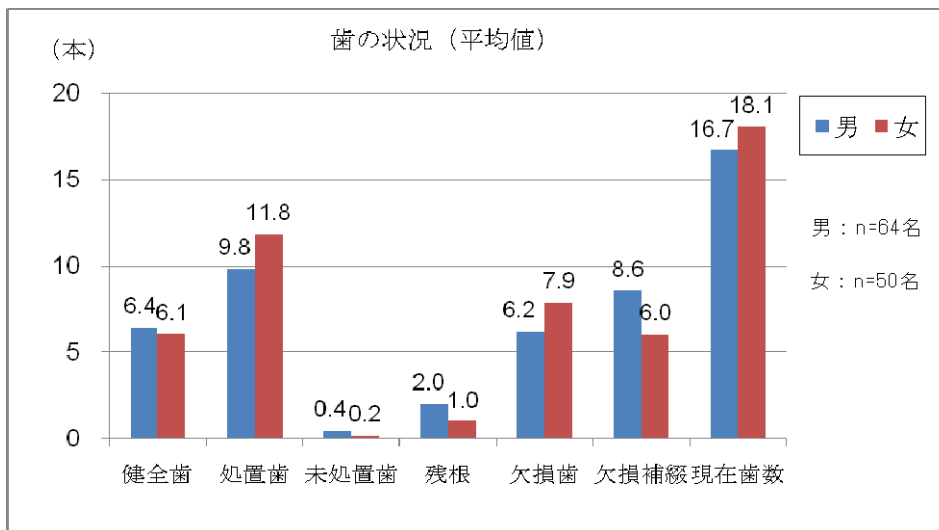


年1回以上の定期的歯科受診は、男性では60%代、女性では50%代であった。

12. 現在歯数

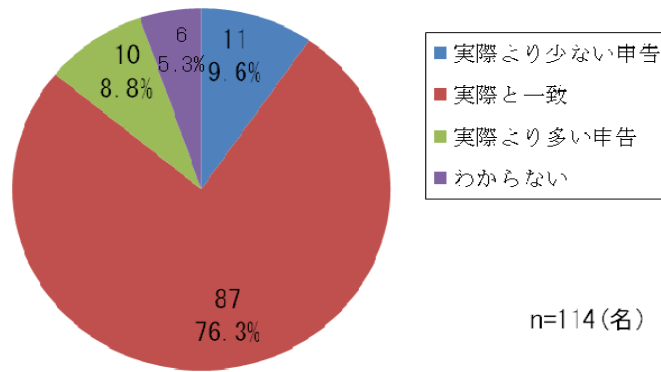


現在歯数は、男女共に約半数が20本以上を占めていた。無歯顎者（0本）は、男性が女性と比べ多かった。平成17年の愛知県「80歳における歯の健康づくり実態調査」の8020達成率は37.4%であったことから、今回の愛知県の実態調査では、さらに8020達成率が向上していた結果となった。



現在歯数については、男性は平均16.7本、女性は平均18.1本であった。

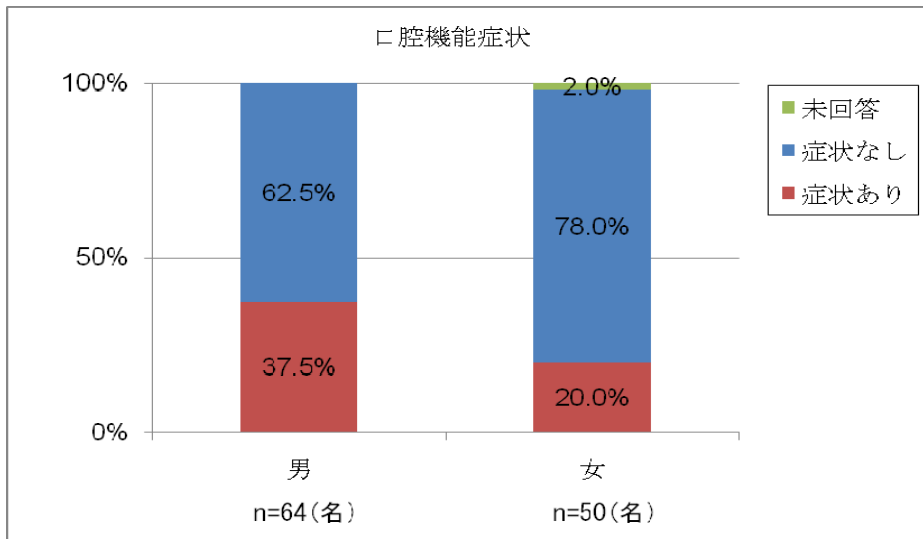
現在歯数の自己申告と口腔内診査との一致率



※現在歯数の自己申告と歯科医師による口腔内診査との結果を
0本・1～9本・10～19本・20本以上に分類し照合した。
なお、総義歯の自己申告は診査による0本と一致とした。

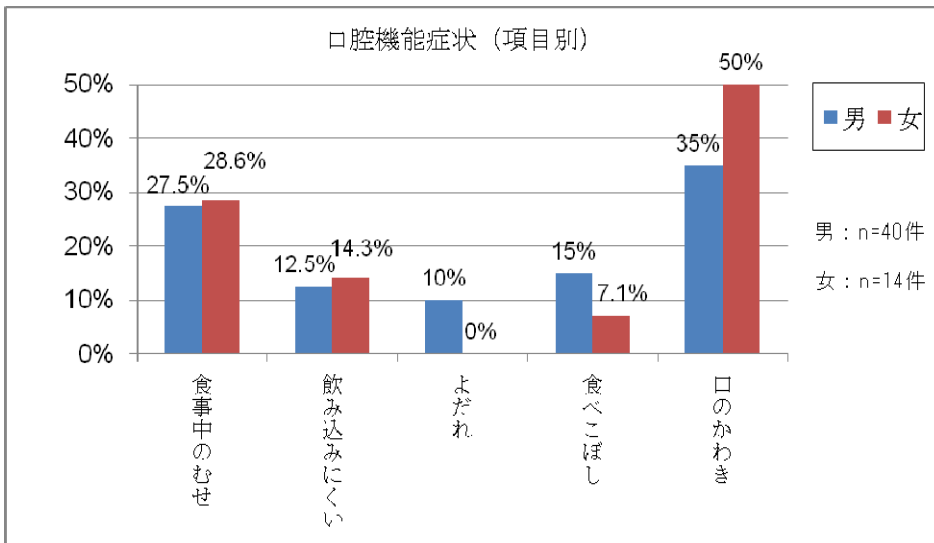
現在歯数について、一次調査の自己評価申告と二次調査の歯科医師による口腔内診査とどの程度一致しているかを調べると、「実際と一致」の割合が最も多く76%を占めていた。次に、「実際より少ない申告」、「実際より多い申告」の順であった。従って、80歳高齢者における歯に対する関心・意識は非常に高いと考えられた。

13. 口腔機能症状



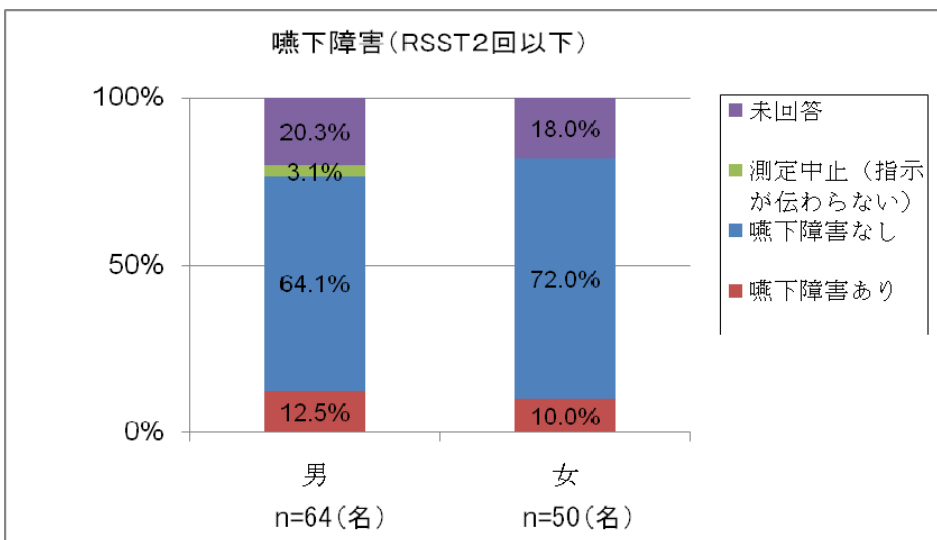
摂食・嚥下機能に関する口腔機能症状は、食事時のむせ、飲み込みにくい、よだれ、食べこぼし、口のかわきのいずれか（複数回答可）を口腔機能症状ありとし、男性では30%代、女性では20%に認められた。

14. 口腔機能症状（項目別）



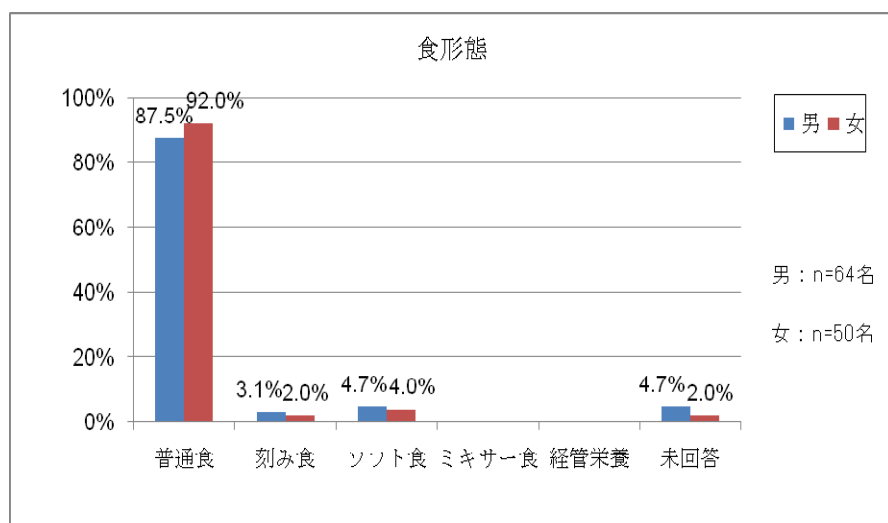
口腔機能症状の項目別に見ると、「口のかわき」が男女共に最も多く、女性では50%も認められた。次に「食事中のむせ」が3割弱見られた。「よだれ」は男女共に最も少なかった。

15. 嚥下障害（RSST 2回以下）



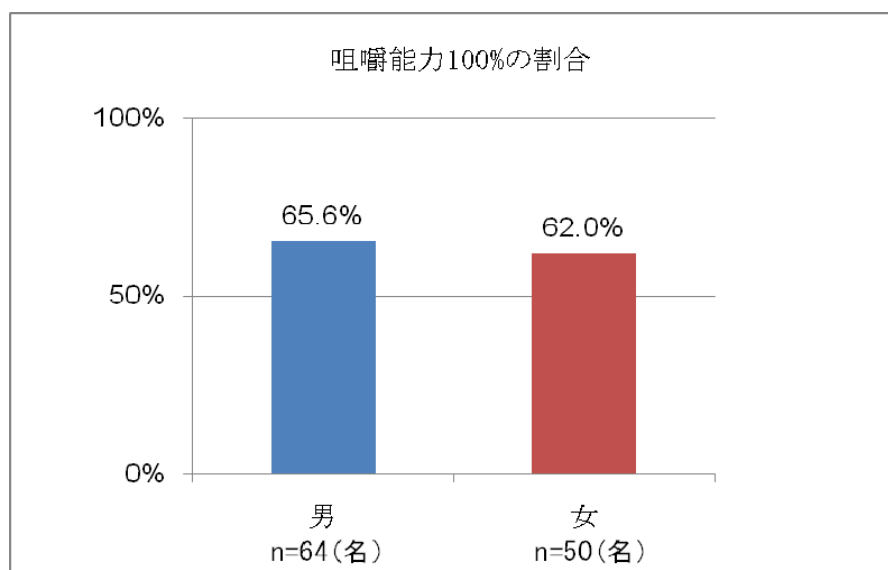
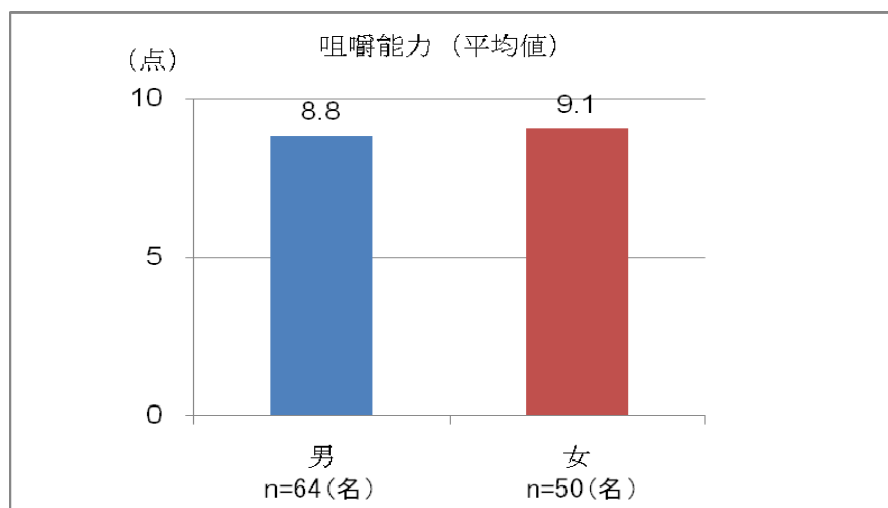
嚥下障害の疑いとされるRSST（反復唾液嚥下テスト）が2回以下の者は、男女共に1割程度認められた。

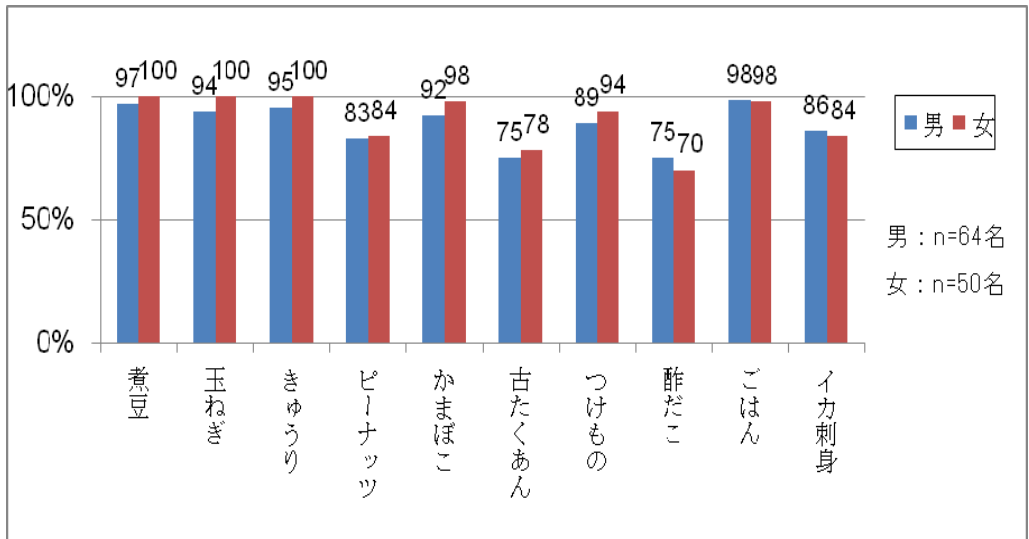
16. 食形態



普通食が約9割を占め、非普通食（きざみ食・ソフト食）は少なかった。

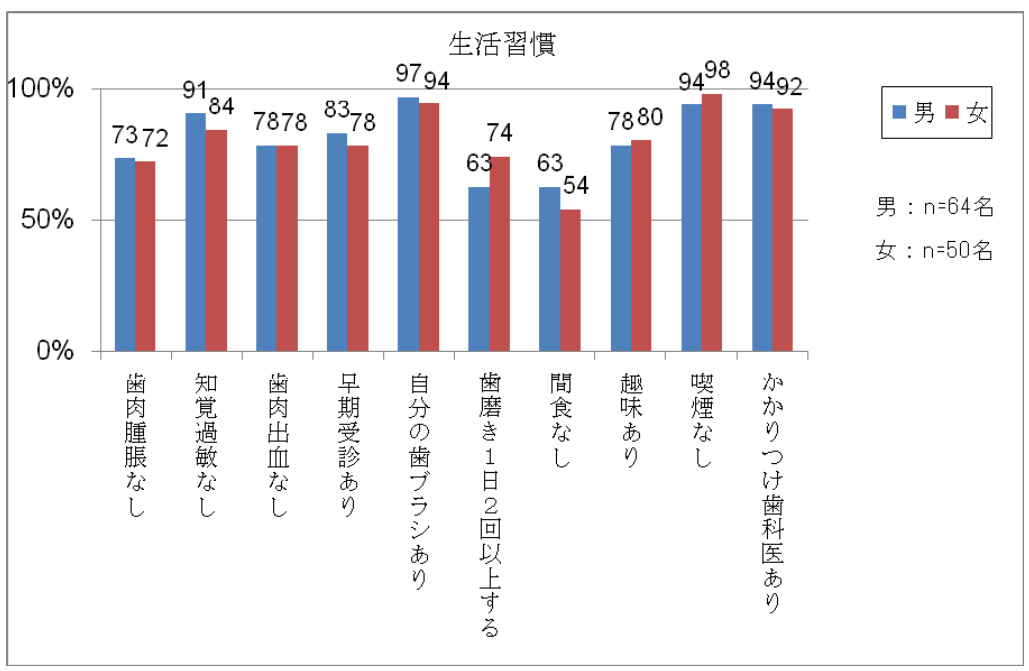
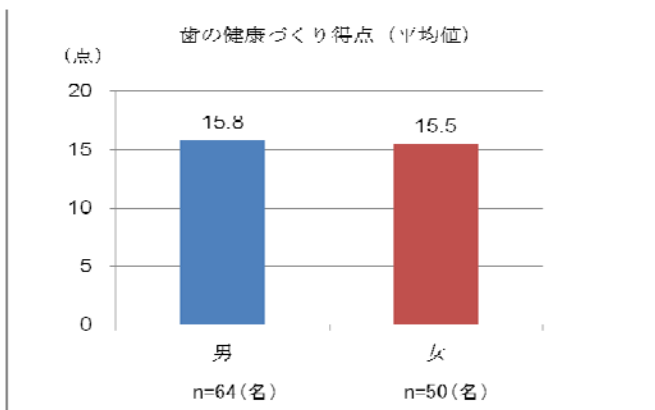
17. 咀嚼能力（食生活）





10食品の噛めるかどうかの自己評価から見た咀嚼能力（平均値）は、10点満点のうち男性8.8点、女性9.1点であり、咀嚼能力100%者の割合は男女共に60%代であった。

18. 歯の健康づくり得点



自覚症状と生活習慣を評価する歯の健康づくり得点の平均値は、男女共に 20 点満点中 15 点代であった。「自分の歯ブラシあり」「喫煙なし」「かかりつけ歯科医あり」はいずれも 90% 以上認められた。

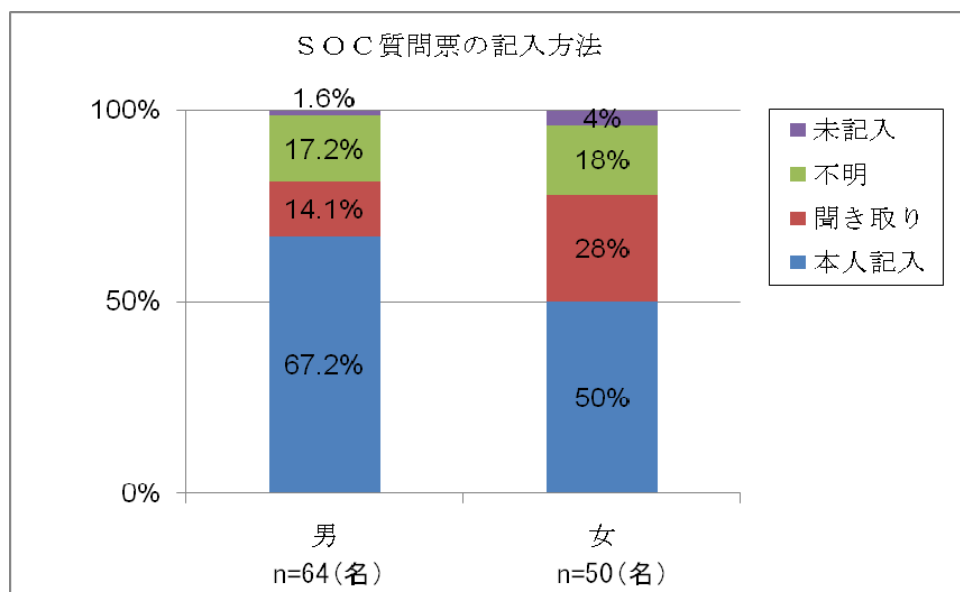
人生の志向性に関する質問票 SOC（首尾一貫感覚、健康保持能力）の強さの評価

SOC 短縮版 13 項目質問票（山崎翻訳版）は質問表現が理解困難なものが含まれていたため、その表現を平易に改変したものを作成した。下記のとおり、SOC13 項目質問票の山崎翻訳版と表現改変版スコアの一致性の評価調査を事前に実施し、強い相関が認められたので、改変版を用いて調査を行った。

※SOC13 項目質問票の山崎翻訳版と表現改変版のスコアの相関

SOC13 項目質問票の山崎翻訳版と表現改変版について、平均年齢 68.2 歳の 53 名を対象に調査を行いその一致性を評価した。その結果、SOC13 項目のスコアの合計の相関係数は $r=0.90$ ($p<0.001$)、把握可能感 (CO) は $r=0.84$ ($p<0.001$)、処理可能感 (MA) は $r=0.75$ ($p<0.001$)、有意味感 (ME) は $r=0.88$ ($p<0.001$) であり、強い相関がみられた。

19. SOC 質問票の記入方法

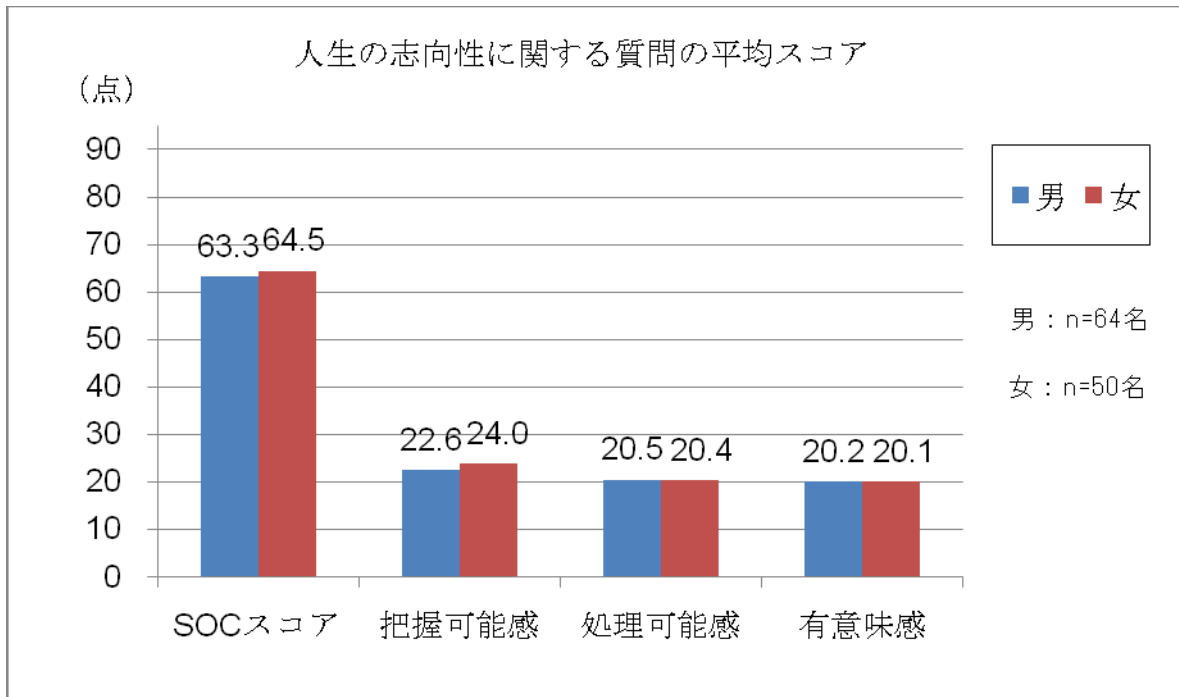


20. SOC の平均スコア

SOC スコアの計算方法： 各質問 1-7 点 × 13 質問 = 13-91 点

SOC を構成するもの（下位尺度）

- ①把握可能感：自分の置かれている状況が予測でき理解できる
- ②処理可能感：何とかなる、何とかやっけていける
- ③有意味感：日々の営みにやりがいや生きる意味が感じられる



80歳におけるSOC平均スコアは、91点満点中64点（70%）であった。各スコアの男女間に差は認めなかった。

21. 現在歯数とSOCの関係

